

税理士の ひとりごと

No. 130

悪法もまた法なり

税理士 齋藤明

天下の愚策とまで言われた定額減税がホントに施行されてしまいました。「本気か?」と思っていいたら、その後、追い討ちをかけるように政府は「企業には給与明細に所得税の減税額を明記することを義務化する」などと法施行日の1カ月前に言い出す始末。どうやら政府のお偉いさんは、給与支払者の事務作業も、給与計算ソフトのベンダーのシステム改修もチョコチョコイのチョコイでできると思っているのでしょうか。一方、我々税理士は、顧問先から「どう対応したらよいのですか?」との質問にいちいち対応しなくてはならず、しかも制度が複雑すぎて、口頭で説明しても全然伝わらない。そんな状況にさぞかし税理士の皆はご立腹であろうとニヤニヤしながら私の所属する税務会計学会で「皆さんは定額減税をちゃんとやりますか?」と諮ってみたところ、ナント返ってきたすべての回答が「ちゃんとやります。法律で決まったこ

とを守るのは当たり前じゃありませんか。税理士だもの」といったものばかりで、私は思わず「相田みつをか!」とツツコミを入れてしまったのです。昔から日本の武道や芸術などの道を極める世界には「守破離」というプロセスがあると考えられています。「守」は、師匠や流派の教えなどを忠実に守って確実に身につける段階。「破」は、覚えた型を自ら応用させて進化させる段階。「離」は、所属している流派から離れ、独自の流儀を生み出す段階を言います。この守破離の考え方からすれば、学会の税理士って学術的に税法を極めた人たちの集まりなのだと思いますので、定額減税に関する対応についても何か画期的な方法を「破〜!」と打ち出してくれるドラゴンボールの破壊神のような人が一人くらいいるかと思ったのですが、いませんでしたね。そう言いながら、実は私は最初から誰かに期待などしていなかったのです。